

平成 30 年度事業報告書

2019 年 6 月

一般財団法人 出版文化産業振興財団

表 2

目 次

平成 30 年度事業報告	3
平成 30 年度収支報告書及び財産目録.....	38
2019 年度事業計画並びに予算	51
定款	59

P2

平成 30 年度事業報告

(平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで)

一般財団法人 出版文化産業振興財団

＜総務関係＞

1. 理事会・評議員会の開催

①第 116 回理事会

月日：6 月 1 日 場所：日本出版クラブ会館

議題：第 1 号議案 「平成 29 年度事業報告並びに決算案、監査報告」

第 2 号議案 「平成 30 年度事業進捗状況」

第 3 号議案 「任期満了に伴う理事・監事の改選」

第 4 号議案 「第 68・69 回評議員会の開催について」

②第 68 回評議員会

月日：6 月 25 日 場所：日本出版クラブ会館

議題：第 1 号議案 「平成 29 年度事業報告並びに決算案、監査報告」

第 2 号議案 「平成 30 年度事業進捗状況」

第 3 号議案 「任期満了に伴う理事・監事の改選」

③第 69 回評議員会並びに第 117 回理事会

月日：11 月 14 日 場所：出版クラブビル（神保町）

議題：第 1 号議案 「平成 30 年度上期事業報告並びに収支報告」

第 2 号議案 「平成 30 年度下期事業について」

第 3 号議案 「平成 31 年度子どもゆめ基金助成申請について」

第 4 号議案 「評議員の一部交代について」

◆山下直久 評議員 → 村川 忍 評議員（KADOKAWA）

◆齋藤 貴 評議員 → 山下康治 評議員（トーハン）

④第 70 回評議員会並びに第 118 回理事会

月日：3 月 12 日 場所：出版クラブビル（神保町）

議題：第 1 号議案 「平成 30 年度事業報告並びに決算見通し」

第 2 号議案 「平成 31 年度事業計画並びに収支予算案」

第 3 号議案 「役員の一部交代について」

◆高田 聡 理事 → 貝沼保則 理事（協和出版販売）

◆奥村 傳 評議員 → 千葉 均 評議員（ポプラ社）

＜退任＞ 江崎直利 評議員（日書連理事、静岡県）

事業報告

1. 生涯学習事業

①第26期「JPIC 読書アドバイザー養成講座」開講



読書を通じた生涯学習・読書活動の推進のため、「本」「読書」の魅力を掘り下げる多彩な講座内容を提供しています。

今年度は5年に1度の改訂期となり、準備委員会を設けライターの永江朗氏を監修にテキストが出来ました。カリキュラムは、コミックの歴史や著作権等、テキスト改訂に合

わせ一新し、講師陣には現在第一線で活躍されている方々にご出講いただきました。また、装丁実習や個性的な書店見学などのオプションツアーは、いずれも定員以上の申込があり、受講生の意識の高さがうかがえました。

平成30年8月から31年3月まで、8ヶ月にわたるレポート作成とスクーリングを経て、3月10日に行われた修了式では、作家の三浦しをん氏の記念講演（聞き手：永江氏）が行われ、製作秘話や自身の読書体験についてお話いただきました。修了式では、日本書店商業組合連合会、船坂良雄会長から激励の祝辞を賜りました。

第26期は新たに94名のJPIC読書アドバイザーが誕生し、修了生の累計は約2,500名となりました。（受講料：一般58,000円 JPIC賛助会員53,000円）

■一般財団法人 日本児童教育振興財団 助成活動



受講者同士がお互いを知る機会にもなるグループディスカッション



オプションツアーでは、特色のある書店巡り

＜スクーリング スケジュール一覧＞

講座	日程	カリキュラム	講師
スクーリング①	平成 30 年 8 月 25 日	開講式 総 論 発達と読書 アドバイザー活動紹介	永江 朗 佐々木宏子 大橋悦子 松下 浩
スクーリング②	8 月 26 日	JPIC 概要 マンガ史と編集 出版流通 グループディスカッション	中泉 淳 夏目房之介 永江 朗
オプションナルツアー	8 月 27 日	見学会（COWBOOKS、デッサン、代官山蔦屋書店） 見学会（ブックハウスカフェ） 校閲実習	永江 朗 井上孝夫
オプションナルツアー	10 月 26 日	見学会（印刷博物館、北越紙、国会図書館）	
スクーリング③	10 月 27 日	本の情報収集と検索 雑誌編集 ブックトーク	永江 朗 木俣正剛
スクーリング④	10 月 28 日	電子書籍の今 古本屋の棚から見た読書術 書評の読み方書き方	植村八潮 岡崎武志 豊崎由美
オプションナルツアー	31 年 1 月 25 日	古書店ツアー（貝の小鳥・自由学園 明日館・往来塾） 見学会（トーハン） 読書会ファシリテーター体験会	岡崎武志 中村 謙 細井 聖
スクーリング⑤	1 月 26 日	本の選書 出版社と書店をはじめる 図書館の役割	幅 允孝 木瀬貴吉 辻山良雄 永江 朗 大串夏身
スクーリング⑥	1 月 27 日	本の造りや装丁について イベント企画 グループディスカッション	岡本幸治 内沼晋太郎
オプションナルツアー	3 月 8 日	見学会（山陽堂書店・クレヨンハウス・AGU Book Café） 装丁実習 書評講座	永江 朗 岡本幸治 豊崎由美
スクーリング⑦	3 月 9 日	さまざまな読書活動と著作権 書籍編集 グループディスカッション	福井健策 安藤 聡
スクーリング⑧	3 月 10 日	文字・活字文化の振興策 まとめ 記念講演 修了式、懇親会	肥田美代子 永江 朗 三浦しをん

＜第 26 期受講生 属性一覧＞

男女計	男性	女性	年代別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
100	18	82	100	0	18	21	18	26	17	0

地域別計	北海道	東北	関東	信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
100	3	5	59	8	2	11	5	3	1	3	0

職業別	図書館	書店	出版社	出版関係	販売会社	公務員
	21	11	12	0	4	6
100	主婦	自営業	教員	学生	会社員	その他
	9	7	6	2	13	9

②「JPIC 読書アドバイザークラブ(JRAC)」の活動支援

平成5年より開講している「JPIC 読書アドバイザー養成講座」の修了生は、30年度末で約2,500名となりました。修了生は自主運営組織「JPIC 読書アドバイザークラブ^{ジャラック} (JRAC)」を組織して、精力的に活動しています。

JRAC の主な活動としては、自主グループでの「学習会の開催」、「JRAC 通信の発行」、「会員用ホームページでの情報交換」など、多岐にわたります。また全国には、身近な会員のつながりを活かす地域支部があり、現在 13 支部となりました。

JPIC としてもさらに JRAC の活動機会を広げるため、「JPIC 読みきかせサポーター講習会」での読みきかせ講義の講師、講談社「全国訪問おはなし隊」や「スミセイおはなしひろば」でのボランティア向け学習会での講師など、主催・協力事業での講師のほか、各種団体からの講師派遣依頼や問い合わせにも対応し、おはなし会の読み手も依頼しています。

また、「この本読んで！」では毎号、JRAC 会員がおはなし会プログラムや新刊紹介などを担当し、読者から人気のコーナーとなっています。(JRAC 会員：644 名、30 年度末現在)

③各種読書講習会

JPIC 読みきかせサポーター講習会

読みきかせボランティアの育成を目的として、「JPIC 読みきかせサポーター講習会」を平成 11 年より開催しています。絵本作家の講演と、JPIC 読書アドバイザーによる実技講習で、すぐ活動に活かせる講習会と好評。リピーターも多く参加しています。



23 年度より一般社団法人生命保険協会の協賛をいただき、一層内容を充実して展開しています。

(実施：10 ヶ所 参加者：1,057 名、参加費：1,000 円)

■協賛：一般社団法人生命保険協会

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日付	地区	会場	特別講師	申込者数	参加者数
1	6 月 23 日	宮城県仙台市	ハーネル仙台	大友 剛	149	134
2	7 月 7 日	鹿児島県鹿児島市	鹿児島商工会議所ビル	高畠 純	117	93
3	7 月 28 日	香川県高松市	サンポートホール高松	長野ヒデ子	157	132
4	9 月 1 日	和歌山県和歌山市	県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛	浜田桂子	73	64
5	10 月 13 日	新潟県新潟市	朱鷺メッセ	いとうひろし	134	108
6	11 月 10 日	大阪府大阪市	CIVI 研修センター新大阪東	とよたかずひこ	289	189
7	11 月 17 日	青森県青森市	リンクステーションホール青森 (青森市文化会館)	大友 剛	85	77
8	12 月 8 日	長崎県長崎市	長崎県勤労福祉会館	ひろかわさえこ	54	40
9	12 月 15 日	群馬県前橋市	ベシシア文化ホール (群馬県民会館)	山口マオ	105	76
10	1 月 26 日	愛知県名古屋市	愛知県産業労働センター (ウイंकあいち)	ひろかわさえこ	184	144
合計					1,347	1,057

JPIC 読みきかせサポーター実践講座 ～グループワーク編

21 年度から、読みきかせ活動の経験者を対象にスキルアップのための講座を開催しています。講義では子どもの読書推進の現状などを幅広く学び、地域の読書推進活動の核となる人材を育成するための講座です。26 年度から、グループワーク



編として、より参加者間の交流を図る内容に変わりました。また、紙芝居の魅力を学べる紙芝居講座（協力：童心社）も好評です。30 年度は、全国 10 会場で開催しました。

(実施：10 会場、参加者：1,148 名、参加費 1,000 円)

■協賛：一般社団法人生命保険協会

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日付	地区	会場	特別講師	申込者数	参加者数
1	6月16日	東京都中央区	CIVI 研修センター 日本橋	藤田浩子	264	200
2	7月21日	栃木県宇都宮市	栃木県総合文化センター	阿部 恵	158	141
3	8月25日	福島県福島市	コラッセふくしま	藤田浩子	167	142
4	9月8日	福井県福井市	福井県国際交流会館	阿部 恵	78	66
5	9月22日	北海道札幌市	札幌国際ビル	阿部 恵	159	133
6	9月29日	広島県広島市	広島サンプラザ	藤田浩子	152	108
7	10月20日	島根県松江市	松江テルサ	張替恵子	80	62
8	12月1日	高知県高知市	高知城ホール	村中李衣	52	32
9	2月16日	福岡県福岡市	エルガーラホール	藤田浩子	170	145
10	2月23日	京都府京都市	京都烏丸 コンベンションホール	村中李衣	173	119
合計					1,453	1,148

平成30年度末で「サポーター講習会」は累計495回、延べ参加者47,892名となりました（「JPIC読みきかせサポーター講習会」、「JPIC読みきかせサポーター実践講座～グループワーク編」のほか、過去開催の「読書サポーター講習会」、「子どもの本講習会」、「YA文学講座」を含みます）。

10代から始めるリベラルアーツ

29年度から始まった当シリーズ。30年度は、主に中学生から大学生を対象として、これからの時代に必要とされる「教養」をテーマに5回の講演会を行いました。各回の登壇者は、参加者に意見を求めながら議論を深めると同時に、読書の重要性についても伝えました。質疑応答の時間にはたくさんの方が手を挙がり、若い参加者の積極的な姿勢が印象的でした。



岸見一郎さんによる「嫌われる勇気」講演会

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動
（※講演会の様子は動画配信もしています）

	日程	開催地	会場名	ゲスト	申込者数	参加者数
1	7月22日	千代田区	アキバホール	岸見一郎（哲学者）	294	181
2	8月18日	千代田区	ワテラスコモン	佐々木紀彦（News Picks CCO） 安田洋祐（経済学者）	156	121
3	9月14日	渋谷区	EDGEof	瀧本哲史（京都大学客員准教授）	112	70
4	9月24日	千代田区	ワテラスコモン	小野雅裕 （NASA ジェット推進研究所）	137	115
5	12月9日	千代田区	ワテラスコモン	宮島達男（現代美術家）	119	77
合 計					818	564

④さまざまな層への読書アプローチ

「辞書を読む」プロジェクト

25年度より「辞書・日本語の魅力」を積極的に発信する「辞書を読む」プロジェクトをスタートさせ、店頭活性化、読書推進へとつなげています。

第7回目となる書店店頭での「辞書を読む」ブックフェアでは、辞書出版社を中心とした出版社12社の協賛、販売会社の協力のもと、全国の書店でフェアを開催しました。昨年に引き続き、特別協力店、一般店という2つの形態を設け、各書店の希望に合わせた開催を可能にしました。拡材も簡易的な一般店用、しおりやリーフレット等お客様に配布する拡材のある特別協力店用と内容を分けて作成。辞書ごとの違いがよくわかると、書店から好評でした。

連動企画としては、昨年に引き続き、書店を対象とした「飾りつけコンクール」を実施し、同時企画として「言葉の意味大募集！“語釈コンテスト”」を実施しました。

辞書関連イベントとして、子どもゆめ基金助成事業を協賛出版社と協力し以下のとおり開催しました。



飾り付けコンクール 金賞受賞店
BOOKS アルファ 能代SC店（秋田県）

■協賛：朝倉書店、岩波書店、旺文社、KADOKAWA、学研プラス、三省堂、
集英社、小学館、大修館書店、日本漢字能力検定協会、
ベネッセコーポレーション、光文社

■特別協賛：大日本印刷

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	講師、登壇	参加者数
1	9月1日	相模原市	アリオホール	木幡延彦	95
2	11月3日	千代田区	AP市ヶ谷	金田一秀穂	174
3	3月3日	福生市	福生市民会館	木幡延彦	200

「Live at Bookstore 京都 2018」

30年度より一般財団法人 光文文化財団と協力して、地方の書店活性化およびSNSによるコミュニティの形成を目的として「Live at Bookstore」をスタートしました。30年度は子どもゆめ基金の助成を得て、京都でプロジェクトを展開。全11回のイベントを開催しました。



京都フランス文学読書会風景

◆京都フランス文学読書会

光文文化財団 常任理事であり、光文社古典新訳文庫創刊編集長でもある駒井稔氏を進行役に迎えて、読書会を開催しました。京都の若手書店員を中心としたグループ「京都文芸同盟」や参加者有志が、ファシリテーターを担当。31年度からは、定期的を開催する読書会へと発展しました。

	日程	開催地	会場名	課題図書	参加者数
1	5月25日	京都府	京都岡崎 蔦屋書店	コクトー 『恐るべき子供たち』	15
2	6月22日	京都府	丸善 京都本店	サン＝テグジュペリ 『夜間飛行』	32
3	11月10日	京都府	大垣書店&cafe 高野店	コンスタン『アドルフ』	19
4	11月30日	京都府	丸善 京都本店	フローベール 『三つの物語』	17
5	2月16日	京都府	丸善 京都本店	ラディゲ『肉体の悪魔』	24
6	3月2日	京都府	丸善 京都本店	ブルースト 『消え去った アルベルチヌ』	28
7	3月31日	京都府	BLUE BOOKS cafe 京都	ヴィアン 『うたかたの日々』 ゲスト：野崎 歓	50

◆トークイベント

翻訳者やライターをお招きしてのトークイベントを全4回開催。執筆の際のこだわりや、想いなどを語っていただきました。普段は聞くことのできない裏話などもあり、参加者の満足度が高い会となりました（進行：駒井稔氏）。

	日程	開催地	会場名	テーマ、登壇者	参加者数
1	5月26日	京都府	恵文社一乗寺店	「ブルーストからジュネ まで。異端と正統の間で 中条省平（学習院大学教授）」	35
2	6月23日	京都府	モンターグ・ ブックセラーズ	「ナルニア国から訪ねる 英米児童文学」 土屋京子（翻訳家）」	38
3	12月1日	京都府	大垣書店&cafe 高野店	「新訳と古典作品の 新しい読み方の誕生」 永江 朗（ライター・批評家）」	30
4	3月3日	京都府	イオンモール KYOTO Koto ホール	「ドストエフスキーと、 15歳の私」 亀山郁夫（ロシア文学者）」	81

「Live at Bookstore」は31年度も事業を継続します。京都では「京都フランス文学読書会」を開催。その他の都市でも、書店と読者をつなぐイベントを行う予定です。

■主催：一般財団法人 出版文化産業振興財団、一般財団法人 光文文化財団

■協力：京都文芸同盟

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

2. 調査研究事業

日本国際問題研究所 英語版制作・出版への協力

30年度より日本国際問題研究所の受託事業として、政治・外交・歴史分野の書籍の英語版制作を開始しました。JPICが事務局・版元として事業の進行を担い、2タイトルを出版しました。

30年度 JPIC 発行書籍

Yoshida Shigeru and His Time

原書：『吉田茂とその時代』岡崎久彦（PHP 研究所）

Shigemitsu and Togo and Their Time

原書：『重光・東郷とその時代』岡崎久彦（PHP 研究所）

日本財団 寄贈事業「Read Japan」への協力

日本財団が主催する「Read Japan」＜現代日本理解促進のための図書寄贈事業＞に、事務局として参画しました。これは、日本に関する知見を広げる 100 冊の英文書を、在外公館が推薦する世界の研究機関へ提示して希望を募り、書籍を寄贈するプログラムです。

30 年度は 46 機関へ寄贈しました。

3. 情報提供事業

「JPIC NEWSLETTER」の発行

賛助会員の皆様に、財団事業の報告のため「JPIC NEWSLETTER」を毎月発行しています。掲載内容についてのお問い合わせのほか、財団運営に対するアドバイスをいただくなど、財団事業へ反映させています。

30 年度中に 11 号を発行し、通巻 205 号となりました。



JPIC ホームページ

財団事業の活動を幅広く紹介し、活動スケジュールなどをいち早く提供するため平成 10 年 2 月よりホームページを公開しています (<http://www.jplic.or.jp/>)。

特に 4、5 月の訪問数が多く、年度当初に公開する「JPIC 読書アドバイザー養成講座」、「JPIC 読みきかせサポーター講習会」など講習会予定をホームページで確認する方が増えています。

「JPIC 読みきかせサポーター講習会」と「JPIC YOUTH」「JAPAN LIBRARY」については、それぞれ個別の HP も作成し、より一層内容を充実させています。



「上野の森 親子ブックフェスタ」や「書店大商談会」などの大きなイベントにおいては、開催に向けて随時情報を更新して、参加者や関係各者へアピールをしています。

また、各講習会・イベントの参加申込ツールとして web と連動し、web 申込者と希望者には「JPIC メールマガジン」を配信しています。全国のボランティアや本に関心のある方々に講習会やイベント情報等を随時発信しています。(30 年度末 メールマガジン読者：14,190 名) JPIC の公式 Twitter (@jplic_web) でも最新情報を発信しています。

季刊誌『この本読んで！』の発行

JPIC の読書推進運動への協力者との情報交換・情報提供のため、季刊誌「この本読んで！」を平成 13 年 11 月に創刊（事業協力：博報堂）。30 年度末までに 70 号を発行しました。

絵本や読みきかせ活動の情報を中心に、〈JPIC 読書アドバイザー〉選・おはなし会プロ

グラムや毎号 100 冊の新刊絵本の紹介、童話・YA 紹介など、おはなし会や朝読に役立つ多彩な内容を、見やすいカラー誌面で構成しています。人気作家のエッセイや、読者から反響の多い語りや発達障害についての連載も掲載中です。

メディアパルに発売代行を委託し、書店でも販売してより多くの読者の手元に届けられるようにしています。読書ボランティアの購読とともに、公共図書館・学校図書館からの購読も多く、9,500 部発行しています。



67号



68号



69号



70号

発行形態	発行：年 4 回（5 月、8 月、11 月、2 月） 形態：A4 変形・88 ページ	
掲載記事	67 号 2018 年夏号	特集：好奇心・探求心をはぐくむ科学絵本 / 読みきかせは楽しい！ こんにちは！絵本作家さん 出久根 育 表紙・スペシャルインタビュー 長谷川義史
	68 号 2018 年秋号	特集：絵本どうぶつえん / 絵本から読みものへ こんにちは！絵本作家さん 祝！国際アンデルセン賞受賞 角野栄子 表紙・インタビュー あべ弘士
	69 号 2018 年冬号	特集：たべもの絵本 / かこさとしからの贈りもの スペシャル対談 安野光雅×中島京子 表紙・こんにちは！絵本作家さん たしろちさと
	70 号 2019 年春号	特集：森山京 小さな人々へのメッセージ / 未来に残したい絵本 2018 何度でも読みたくなる名訳絵本 表紙・つちだよしはる
購読料	・定期購読（4 冊）：4,320 円（送料無料・税込） ・バックナンバー：1,200 円（送料・税込）	

年 4 回の発行以外に、毎週 1 回、本誌の情報と、その時期おすすめの絵本を紹介する「この本読んで！」メールマガジンを配信しています（30 年度末 メールマガジン読者：801 名）。

また、「この本読んで！」ファンミーティングとして、読者間のつながりをつくるイベントも開催しています。



	日程	開催地	会場名	スペシャルゲスト	参加者数
1	6月22日	宮城県	仙台アエル	大友 剛	15
2	7月12日	東京都	千代田区神保町区民館		19
3	8月31日	和歌山県	宮脇書店和歌山店	浜田桂子	7
4	10月17日	東京都	千代田区神保町区民館		16
5	11月9日	大阪府	新大阪駅付近貸会議室		14
6	1月25日	東京都	水道橋駅付近貸会議室		19
7	2月22日	京都府	ウイングス京都	村中李衣	29

4. 交流協力事業

①地域読書環境整備事業

書店も図書館もない地域に読書機会を提供する「地域読書環境整備事業」で、自治体のモデル読書施設開設・運営に協力しています。

これまでの設置は、5市町村で、大分県耶馬溪町「わかば」（平成4年5月開設・20年3月31日閉店）、岩手県大船渡市「ブックワールド椿」（平成4年10月開設・23年3月閉店、開設時は三陸町）、北海道礼文町「Book 愛ランドれぶん」（平成5年10月開設）、福島県飯舘村「ほんの森 いいたて」（平成7年2月開設、23年6月15日休業）、長野県東御市「ブック童夢みまき」（平成8年7月開設、開設時は北御牧村・市町村合併により23年度で閉店）です。「Book 愛ランドれぶん」は、30年10月に開設25周年を迎えました。JPICは引き続き、読書環境づくりに協力しています。

福島県飯舘村支援

東京電力福島第一原子力発電所の事故により全村避難をしていた福島県飯舘村。平成29年3月に一部地域を除き避難指示が解除され、30年4月にはこども園が開園、小中学校が開校しました。JPICは引き続き飯舘村の子どもや若者に向けて、読書環境の充実を目指す支援を続けています。

31年1月13日に行われた成人式では、帰村環境整備の一環として、新成人に20冊の推薦図書から好きな本を選んでもらう「20歳の20冊」が実施され、56名に本を贈呈しました。また、飯舘村に出生届を出した生後2カ月前の赤ちゃんに贈る「ほんの森 ファーストブック」事業で贈呈する絵本を、JPICは村に毎年寄贈しています。30年度は、28名に56冊の絵本を提供しました。

そのほか読書意識の向上を目的におこなっている「読書メッセージコンテスト」への審

査協力と、JPIC 賞への図書カードを贈呈しています。30 年度のコンクールには応募が 69 通あり、審査の結果、最優秀賞 1 作品、優秀賞 3 作品と、JPIC 賞の 5 作品、計 9 作品が選ばれました。

有田川町読みきかせ事業

30 年度より、和歌山県有田川町にて「有田川町絵本よみきかせ隊」「有田川町絵本コンシェルジュ」養成講座を開講しました。これは「絵本のまち有田川」をこれまで以上に民間の力で推し進めるために、町が独自でスタートさせた人材育成事業です。

JPIC は助言と企画立案、講師の斡旋、当日の講座進行などを行いました。5 月 20 日におこなったプレ講座を皮切りに、よみきかせ隊は講座 4 回および読みきかせの実践を 1 回、コンシェルジュ養成講座 2 回を開催しました。

よみきかせ隊 47 名、コンシェルジュ 26 名が誕生し、現在、町内の小学校、図書館などで読みきかせの活動をしています。

■有田川町よみきかせ隊養成講座

日付・タイトル	内容	講師等
1 回目 5 月 20 日 プレ講座 98 名参加	おはなし会 子どもの知性と情緒をはぐくむ絵本	阿部 恵
2 回目 6 月 9 日 本講座 47 名参加 「絵本の扉を開けて みましょう」	「絵本のまち有田川 よみきかせ隊に期待すること」	教育委員会
	家での読みきかせとボランティアとしての 読みきかせ ちがいを大解剖	越高一夫
	どんな絵本を選べばいいの？ 子どもの年齢、季節、土地柄など 考慮することは？	越高一夫
	教えて！ 絵本の知識を身につける、 アンテナの張りかた	越高一夫
3 回目 7 月 7 日 「よみきかせ ボランティアに ついて学びましょう」	対象者、場所、時間別、 おはなし会の開きかた	越高一夫
	10 分間のおはなし会、 プログラムはどうたてる？	越高一夫
	知りたい！「絵本のまち有田川」の未来像	教育委員会
4 回目 その 1 7 月 28 日 「おはなし会を 体験しましょう」	実技練習 グループ別 デビュー直前リハーサルおはなし会	JPIC 読書 アドバイザー
4 回目 その 2 8 月 4 日～15 日	イベント「学校ななふしぎ」、 おはなし会&ボランティア体験	
5 回目 9 月 2 日 「絵本のまち有田川 よみきかせ隊誕生！」	読みきかせボランティア 長く続けるコツ教えます。	越高一夫
	グループワーク・発表 読みきかせボランティア体験から学んだこと	越高一夫
	よみきかせ隊修了式&交流会	

■有田川町絵本コンシェルジュ養成講座（対象：よみきかせ隊養成講座修了者）26名参加

日付・タイトル	内容	講師等
6回目 11月17日	子どもの心をわしづかみにしてはなさない おはなし会のテクニック	阿部 恵
	ボランティアの幅を広げましょう	諸岡 弘
	教えて、阿部先生 絵本、子育ての悩み、あれこれ	阿部 恵 諸岡 弘
7回目 12月15日	絵本から児童文学、児童文学からその先へ 生涯にわたる読書のために	越高一夫
	グループワーク	
	修了式&交流会	中山正隆町長 肥田美代子



②「上野の森 親子ブックフェスタ 2018」の開催

平成30年5月3日～5日、台東区・上野恩賜公園にて「上野の森 親子ブックフェスタ 2018」を開催しました。今回は3日間とも晴天に恵まれたこともあり、例年以上に多くの来場者が会場を訪れ、お目当ての本を探したり、会場内のイベントや周辺施設で行われた講演会を楽しんだりする姿が各所で見られました。

■主催：子どもの読書推進会議

日本児童図書出版協会 一般財団法人出版文化産業振興財団

■後援：国立国会図書館、経済産業省、厚生労働省、文部科学省、

東京都教育委員会、台東区、公益社団法人全国学校図書館協議会、
公益社団法人読書推進運動協議会、一般社団法人日本国際児童図書評議会、
一般社団法人日本雑誌協会、一般財団法人日本児童教育振興財団、
一般社団法人日本児童出版美術家連盟、一般社団法人日本児童文学者協会、
一般社団法人日本児童文芸家協会、一般社団法人日本出版取次協会、
一般社団法人日本書籍出版協会、日本書店商業組合連合会、
公益社団法人日本図書館協会、日本図書普及株式会社、文化産業信用組合、
公益財団法人文字・活字文化推進機構、ヤングアダルト出版会、読売新聞社

■協力：上野の山文化ゾーン連絡協議会



■協賛：ALSOK、株式会社あんふぁに、岩塚製菓株式会社、花王株式会社、

公益財団法人住友生命健康財団、図書印刷株式会社、日本コロムビア株式会社

「子どもブックフェスティバル」は、76 社・団体の出展、94 社の出品があり、7,458 アイテム、6 万冊を超える絵本・児童書が勢揃い。会場内に設けられたイベントブースやサイン会ブース、作家団体によるブースには、多くの作家が会場を訪れ、サイン会やおはなし会、似顔絵コーナー、手作りワークショップなどで来場親子と楽しい時間を過ごしました。

講演会は 3 日間合計 6 つのプログラムが開催され、多くの参加者が人気作家の楽しいトークに熱心に聞き入り、パフォーマンスを楽しんだほか、児童文学をはじめ子どもの文化を創造する源流となった児童雑誌『赤い鳥』創刊 100 年を記念した講演会や関連書を並べたブースが設けられ、多くの関心を呼んでいました。

「上野の森 親子ブックフェスタ 2018」の売上は、売上は過去最高額の 39,567,680 円に上り、今年も、子どもたちにたくさんの本との楽しい出会いを用意することができ、読書の機会の提供という本フェスタの目的を果たすことができたと考えています。

なお利益の一部は、「大震災出版復興基金」を通じて、東日本大震災と熊本地震の被災地に拠出いたしました。

■出展者一覧 76 者（50 音順）

あかね書房	クレヨンハウス	小学館	童心社	復刊ドットコム
あすなろ書房	好学社	少年写真新聞社	東洋館出版社	フレーベル館
アリス館	廣済堂あかつき	新興出版社	徳間書店	文研出版
いかた社	佼成出版社	新星出版社	西村書店	保育社
池田書店	講談社	新日本出版社	日本児童図書出版協会	星の環会
一声社	交通新聞社	瑞雲舎	農山漁村文化協会	ポプラ社
今人舎	光文社	鈴木出版	のら書店	ほるぷ出版
岩崎書店	国土社	青幻舎	パイ インターナショナル	三起商行（ミキハウス）
絵本塾出版	子どもの未来社	誠文堂新光社	版元ドットコム	光村教育図書
絵本の家	ゴブリン書房	世界文化社	パンローリング	リトル・モア
えほんの杜	小峰書店	全国農村教育協会	PHP研究所	理論社

化学同人	さ・え・ら書房	大日本絵画	ビーエル出版	ロクリン社
仮説社	朔北社	大日本図書	ひさかたチャイルド	
学研プラス	視覚デザイン研究所	玉川大学出版部	評論社	
金の星社	集英社	汐文社	風壽社	
くもん出版	出版ワークス	帝国書院	福音館書店	

■講演会

日	タイトル	出演者	申込者数	入場者数
3日 AM	ビブリオバトル&トーク 児童文学作家五人のおすすめ本 協力：日本児童文学者協会、あかね書房、 さ・え・ら書房、子どもの未来社	赤羽じゅんこさん（児童文学作家） 松本聡美さん（児童文学作家） おおぎやなぎちかさん（児童文学作家） 森川成美さん（児童文学作家） 濱野京子さん（児童文学作家）	552	161
3日 PM	元氣は自分で作れる！からだの元気大作戦！ ～光・暗闇・外遊びのすすめ～ 協力：図書印刷	野井真吾さん （日本体育大学体育学部教授）	447	120
4日 AM	公演 絵本と音楽とマジック ～子どもが輝く参加型絵本の世界～ 協力：ひさかたチャイルド	大友 剛さん （ミュージシャン&マジシャン&絵本翻訳家）	944	185
4日 PM	講演会&ワークショップイベント 描場（KAKIBA）in 上野の森 協力：今人舎	黒田征太郎さん （画家・イラストレーター）	516	169
5日 AM	光文社古典新訳文庫全7巻完結記念 『ナルニア国物語』の魅力を語りあう 協力：光文社	土屋京子さん（翻訳家） 金原瑞人さん （法政大学社会学部教授）	293	144
5日 PM	『赤い鳥』創刊100年記念 記念講演会「『赤い鳥』を学ぶ」 共催：国立国会図書館国際子ども図書館	関口安義さん （都留文科大学名誉教授） 遠山光嗣さん （新美南吉記念館学芸員）	248	121

計

3,000名 900名

③「書店大商談会」への協力

平成30年9月4日、札幌市・札幌パークホテルにて、第五回「北海道書店大商談会」を開催しました（出展社：111社・111ブース、来場書店人数：203名、商談成立：951件、19,935,808円）。

前回に引き続き、前日にトーハン会、当日には日販会がそれぞれ北海道総会を開催し、書店・出展社が当商談会に参加しやすい環境を整えました。



「北海道ゆかりの本大賞」授賞式

28年からはじまり、今年で三回目となる「北海道ゆかりの本大賞」は、物語の舞台や著者等、北海道にゆかりのある本の中から魅力的な作品を選び、拡販を通じて店頭活性化につなげるための企画。新しい試みとして出展社の自薦も受けつけました。昨年度は文芸と

コミックの二部門で展開、今年度からは「第三回 北海道ゆかりの本大賞（2018 年）」をジャンル不問とし、絵本を対象とした「第一回 北海道ゆかりの絵本大賞（2018 年）」を新設しました。

■主催：同実行委員会

■実行委員長：中尾邦幸・マル五中尾書店代表取締役社長 事務局協力：JPIC

10 月 1 日、千代田区・一橋大学一橋講堂中会議室にて書店大商談会「児童書分科会」を開催しました。56 社の出版社が一堂に会し、クリスマス商材やロングセラーを目的に、多くの児童書担当者が集まりました。



クリスマス商戦に向けた児童書分科会

本会の第九回「書店大商談会」は 2 月 6 日、文京区・東京ドーム・プリズムホールにて開催しました（出展社 273 社・284 ブース、来場書店人数：780 名、商談成立：3,324 件、71,822,772 円、児童書分科会含む）。

セミナー会場では、来場客数増加をねらう勉強会として、聞かせ屋。けいたろうさん、川上徹也さんの講座、森見登美彦さんと宮内悠介さんのトークイベントが開催されました。

■主催：同実行委員会

■実行委員長：矢幡秀治・真光書店代表取締役社長 事務局協力：JPIC

関西では 11 月 7 日、大阪市・グランフロント大阪にて、「BOOK EXPO 2018 秋の陣 ～貫け！書店魂～」を開催しました（出展：238 社、245 ブース、来場書店：1,062 名、商談成立：5,563 件、102,926,622 円）。

八回目を迎える「BOOK EXPO」は、過去最大のブース数となり来場書店人、商談金額も過去最多を記録しました。



「西日本POP王」受賞式

毎年恒例の著者サイン会やトークイベントのほか、「西日本 POP 王決定戦」など、書店活性化のアイディアを受発信する場となりました。

■主催：同実行委員会

■実行委員長：洞本昌哉・ふたば書房代表取締役 事務局協力：JPIC

5. 受託事業・業務等

①読書普及活動協力事業

読書普及活動の活性化に向けて各社が取り組む各事業に対し、「JPIC 読書アドバイザー」「JPIC 読みきかせサポーター」「地元の読書サークル」にボランティア参加の募集を呼びかけ、読みきかせを開催する会場への読み手のコーディネートを行っています。

ア) 全国訪問おはなし隊

講談社が創業 90 周年読書推進事業として平成 11 年 7 月よりスタートさせた「全国訪問おはなし隊」は、30 年度も 10 巡目を順調に走行しました。全国の保育園、幼稚園、小学校、図書館、公民館、児童館、書店などをキャラバンカーで巡回し、地域の読書ボランティアの協力による絵本の読みきかせを通じて、子どもたちに本との出会いを提供しています（30 年度：1,083 会場 累計実績：22,828 会場）。

イ) おはなしマラソン

日本出版販売は、子どもたちに物語の楽しさを伝え未来の読者を育てていこうという試みから、書店での読みきかせ会「おはなしマラソン」を平成 11 年 10 月より、全国で開催しています。JPIC では、ボランティアコーディネートの役割を担っています（30 年度協力 18 店舗、累計実績：721 書店）。

ウ) 取協読書推進事業「読み聞かせ会」

日本出版取次協会は、平成 12 年秋に創立 50 周年記念行事として「読み聞かせ会の開催」を実施しました。12 年度からの成果を踏まえて本年度も「読書推進」「書店店頭の活性化・増売」「第 4 土曜日は、こどもの本の日」の拡充のため、書店における読み聞かせ会を開催しました（期間：30 年 11 月 23 日～31 年 2 月 11 日の毎週土・日曜日、JPIC コーディネート担当実施書店：45 書店）。

②「スミセイおはなしひろば」への協力

公益財団法人住友生命健康財団は、平成 13 年度より、読書を通した子どもの健全育成を目的として、子どもたちが「おはなしや本の楽しさ」に出合う機会をつくる「スミセイお

はなしひろば」を実施しています。

その一環である「おはなしひろばキャラバン」は、希望する保育園・幼稚園に、オリジナル絵本をプレゼントし、大型絵本や紙芝居を交えたおはなし会を届けるものです。読み手に地域の読みきかせサークルをコーディネートしておはなし会を開催。保護者や地域の方のご参加も見られ、家族・地域間のふれあいのきっかけをつくる役割も担っています。

30年度は2地域（9月埼玉県川越市周辺地区、11月神奈川県川崎市周辺地区）で、5,083名の園児が参加しました（30年度実績：80施設、累計実績：2,142施設）。

③朝日新聞社への協力

「オーサー・ビジット・プロジェクト」

「オーサー・ビジット」は、朝日新聞社の読書推進活動として16年目を迎え、これまでに全国の小・中・高等学校427校の学校へ訪問をいたしました。

子どもたちに人気の作家が教室を訪問し、作者独自のユニークな授業や生徒との会話により、読書意欲を喚起することを目的としています。30年度も、前年に引き続きベルマーク運動に参加している学校に費用を一部負担いただくベルマーク版を含め、全国6校に訪問し、子どもたちの笑顔あふれる授業を展開しました。



谷川浩司さんのビジット 撮影：白谷達也

JPICは事務局として協力し、応募校受付や作家と学校の訪問スケジュール管理・旅程作成などの役割を担っています。

	訪問日	訪問地	学校名	作家名
1	10月11日(木)	滋賀県	竜王町立竜王中学校	谷川浩司（棋士）
ベル	11月1日(木)	北海道	北海道八雲養護学校	宮西達也（絵本作家）
2	11月6日(火)	愛媛県	愛媛県立松山北高等学校	辻村深月（作家）
ベル	11月29日(木)	新潟県	魚沼市立堀之内中学校	椎名 誠（作家）
3	12月11日(火)	広島県	広島県立松永北高等学校	池上 彰（ジャーナリスト）
ベル	1月21日(月)	神奈川県	横浜市立川上北小学校	尾木直樹（教育評論家）

※ベル＝ベルマーク版3回

④「第 52 回造本装幀コンクール」への協力

一般社団法人日本書籍出版協会、一般社団法人日本印刷産業連合会が主催する「造本装幀コンクール」は、52 回目を迎えました。

「第 52 回造本装幀コンクール」（募集期間：30 年 1 月 31 日～5 月 10 日）は、147 者 325 作品の応募がありました。5 月 30 日に審査会を行い、文部科学大臣賞、経済産業大臣賞をはじめとする各賞（全 22 賞）を決定しました。9 月 10 日には、受賞者（出版社・装幀家・印刷・製本会社）を招き、表彰式及び記念パーティーを開催しました。神保町ブックフェスティバル開催に合わせ（10 月 26 日～28 日）に、開催エリア内にある東京堂ホールにて入賞作品及び全ての出品作品を公開展示しました。

また、入賞作品は、ドイツのライプツィヒで開催される“世界で最も美しい本コンクール”に日本を代表して出品され、600 点を超える世界各国の出品作品の中から、審査員奨励賞を受賞した『the first』（ボンポワンジャポン刊）が栄誉賞を受賞しました。この数年は、日本からの入賞が続いており、国内のデザイン・印刷製本技術が海外でも高い評価を得ていることが伺い知れます。



第 52 回造本装幀
コンクール公式冊子

⑤生命保険協会 読み聞かせによる“家族のきずな”推進活動

生命保険協会は、20 年度より、「読み聞かせを通じた“家族のきずな”推進活動」を展開し、一般公募による絵本コンテストや施設・団体への絵本寄贈を行ってきました。30 年度は、第四次 3 ヶ年計画の 2 年目として、JPIC 読みきかせ講習会への協賛と読みきかせボランティア団体の支援のため「家族で楽しむ絵本とあそび」の冊子を頒布しました。

⑥内閣府 国際広報「JAPAN LIBRARY」への協力

26 年度に内閣府で開始した JAPAN LIBRARY＜日本の魅力発信に資する書籍の翻訳出版事業＞に、発行元兼事務局として参画しています。文化のみならず、政治・外交・思想・社会・科学技術・自然科学など幅広い分野における日本の多様なノンフィクション作品を英訳出版し、より深い日本理解を図る事業です。対象書籍は、各界各分野の第一人者である民間有識者 10 名からなる選定委員会にて選ばれます。



30 年度発行ジャパンライブラリー・シリーズ

30 年度も、NTT アドと合同で事務局として事業の進行を担うとともに、JPIC は版元と

なり、JAPAN LIBRARY シリーズ第五弾として、12 タイトルを翻訳出版しました。発行書籍は、50 カ国 1,000 カ所以上の大学図書館を中心とした研究機関、公共図書館等へと寄贈しました。

30 年度 JPIC 発行書籍

Friendship across the Seas: The US Navy and the Japan Maritime Self-Defense Force

原書：『海の友情—米国海軍と海上自衛隊』阿川尚之（中央公論新社）

The Remarkable History of Japan-US Relations

原書：『不思議の日米関係史』高坂正堯（PHP 研究所）

Security Politics in Japan: Legislation for a New Security Environment

原書：『安保論争』細谷雄一（筑摩書房）

Toward the Meiji Revolution:

The Search for “Civilization” in Nineteenth-Century Japan

原書：『「維新革命」への道：「文明」を求めた十九世紀日本』荻部 直（新潮社）

Understanding History in Asia: What Diplomatic Documents Reveal

原書：『外交ドキュメント 歴史認識』服部龍二（岩波書店）

Pilgrimages in the Secular Age: From El Camino to Anime

原書：『聖地巡礼—世界遺産からアニメの舞台まで』岡本亮輔（中央公論新社）

Heritage Culture and Business, Kyoto Style: Craftsmanship in the Creative Economy

原書：『京都型ビジネス 独創と継続の経営術』村山裕三（NHK 出版）

Every Day a Good Day:

Fifteen lessons I learned about happiness from Japanese tea culture

原書：『日日是好日—「お茶」が教えてくれた 15 のしあわせ』森下典子（新潮社）

The Lure of Pokémon: Video Games and the Savage Mind

原書：『ポケモンの神話学 新版 ポケットの中の野生』中沢新一（KADOKAWA）

The Art of Emptiness

原書：『余白の美 酒井田柿右衛門』十四代酒井田柿右衛門（集英社）

The Book of Urushi: Japanese Lacquerware from a Master

原書：『うるしの話』松田権六（岩波書店）

The Music of Color

原書：『色を奏でる』志村ふくみ（筑摩書房）

上記タイトルと過去 4 年分を合わせると合計 48 タイトルになりました。特に海外の大学から、日本研究をはじめたばかりの学生たちが有効活用できると好評です。また、一般読者からの「読みたい」という声に応え、書店での販売も本格的に開始しました。国内外のより多くの読者の手に届くよう、電子書籍版も発行しています。

さらに、当事業で翻訳した以下 3 タイトルは、大学でのテキスト採用に強い海外の出版社と協力し、発行しました（過去 3 タイトル刊行）。

30 年度海外の出版社からの刊行

What Is Japanese Cinema?: A History

Columbia University Press 刊

原書：『日本映画史 110 年』四方田犬彦（集英社）

The Burden of the Past: Problems of Historical Perceptions in Japan-Korea Relations

University of Michigan Press 刊

原書：『日韓歴史認識問題とは何か（叢書・知を究める）』木村 幹（ミネルヴァ書房）

The Political History of Modern Japan: Foreign Relations and Domestic Politics

Routledge 刊

原書：『日本政治史—外交と権力 増補版』北岡伸一（有斐閣）

その他、国内外の学会への出展や著者イベントも積極的に行いました。

海外では、4 月に米国サンフランシスコで行われた世界国際関係学会（ISA）、7 月にはインドで行われたアジア学会アジア大会（AAS in Asia）、同じく 7 月に香港ブックフェア、オーストラリア・ブリスベーンで行われた世界政治学会（IPSA）、8 月には米国ボストンで行われたアメリカ政治学会（APSA）、9 月にはイギリス・シェフィールド大学で行われた英国日本研究協会（BAJS）、同じく 9 月にリトアニア・ヴィータウタス・マグナス大学で行われた日本資料専門家欧州協会（EAJRS）、10 月にはフランクフルト・ブックフェア、3 月にはロンドン・ブックフェア、同じく 3 月に米国デンバーで行われたアジア学会（AAS）、カナダ・トロントで行われた世界国際関係学会（ISA）にそれぞれブース出展しました。また、3 月にはアメリカ 11 ヶ所で著者講演会を開催しました。



国内では、6 月に国際基督教大学で行われた日本アジア研究学会（ASCJ）年次研究大会、7 月は大学生協全国書籍部門セミナー、9 月には世界社会科学フォーラム（WSSF）、11 月には日本国際政治学会の年次研究大会にそれぞれブース出展しました。また、国際交流基金による外国人招へい青年を対象としたサマー・インスティテュート（7 月）、文部科学省と日本学生支援機構が共催する国費外国人留学生歓迎会（11 月）にもブース出展しました。

スケジュール1

スケジュール2

スケジュール3

スケジュール4

スケジュール5

スケジュール6

一般財団法人出版文化産業振興財団 理事・監事

理 事 長	肥田美代子（文字・活字文化推進機構理事長）
副理事長	相 賀 昌 宏（日本書籍出版協会理事長、小学館社長）
副理事長	鹿 谷 史 明（日本雑誌協会理事長、ダイヤモンド社会長）
副理事長	近 藤 敏 貴（日本出版取次協会会長、トーハン社長）
副理事長	船 坂 良 雄（日本書店商業組合連合会会長、東京都） ※運営担当
専務理事	小 柳 貴 史
常務理事	野 間 省 伸（講談社社長）
常務理事	堀 内 丸 恵（集英社社長）
常務理事	川 上 浩 明（トーハン副社長）
常務理事	平 林 彰（日本出版販売社長）
常務理事	高 井 昌 史（紀伊國屋書店会長兼社長）
常務理事	西 村 俊 男（日書連副会長、新潟県）
理 事	鎌 仲 宏 治（凸版印刷執行役員）
理 事	北 島 義 斉（大日本印刷社長）
理 事	丹 下 伸 彦（光文社会長）
理 事	中 部 嘉 人（文藝春秋社長）
理 事	古 岡 秀 樹（学研ホールディングス取締役）
理 事	矢 崎 謙 三（主婦の友社社長）
理 事	安 西 浩 和（日本出版販売専務）
理 事	貝 沼 保 則（協和出版販売社長）
理 事	加 藤 悟（中央社社長）

理 事	服 部 達 也（大阪屋栗田社長）
理 事	渡 部 正 嗣（日教販社長）
理 事	亀 井 忠 雄（三省堂書店社長）
理 事	中 川 清 貴（丸善 CHI ホールディングス社長）
理 事	早 嶋 茂（旭屋書店会長）
理 事	藤 原 直（日書連副会長、宮城県）
理 事	松 信 裕（有隣堂社長）

以上 28 名

監 事	桶 田 大 介（弁護士）
監 事	能 勢 正 幸（公認会計士）
監 事	平 井 茂（日本図書普及専務）

以上 3 名

並びは、業態別・個人名50音順

平成 31 年 3 月 31 日現在

一般財団法人出版文化産業振興財団 評議員

秋田 貞美（秋田書店最高顧問）

石 崎 孟（マガジンハウス会長）

石 野 栄一（明日香出版社社長）

大 塚 茂（世界文化社取締役）

大 橋 一 弘（博文館新社社長）

小 林 毅（NHK出版専務）

斎 藤 健 司（日本書籍出版協会常任理事 読書推進委員会委員長、金の星社社長）

清 水 康 史（昭文社取締役）

鈴 木 一 行（大修館書店社長）

高 杉 昇（家の光協会代表理事専務）

高 納 勝 寿（主婦と生活社社長）

千 葉 均（ポプラ社社長）

平 野 健 一（徳間書店社長）

宮 本 哲 男（岩波書店取締役）

村 川 忍（KADOKAWA執行役員）

山 本 憲 央（中央経済社ホールディングス社長）

出版社：以上 16 名

岩 本 幸 子（日本出版販売広報室マネジャー）

大 谷 敏 夫（中央社専務）

小 野 田 裕（日教販専務）

加藤真由美（トーハン広報室長）

齊 藤 隆 巳（日本雑誌販売社長）

竹 林 聡（日本出版販売仕入流通本部仕入部マネジャー）

三 浦 敏（協和出版販売常務）

森岡 忠 弘（大阪屋栗田執行役員）

山下 康 治（トーハン執行役員）

取次会社：以上9名

大垣 守 弘（大垣書店社長）

小林 洋（日書連理事、東京都）

田江 泰 彦（今井書店グループ会長）

春井 宏 之（日書連理事、愛知県）

書店：以上4名

石川 博 史（公文教育研究会専務）

一般：以上1名

以上30名

並びは、業態別・個人名50音順

平成31年3月31日現在

平成 30 年度賛助会員(265 社)

平成 31 年 3 月 31 日現在

出版社

あかね書房
秋田書店
朝倉書店
朝日新聞出版
明日香出版社
飛鳥新社
あすなろ書房
アリス館
家の光協会
医学書院
池田書店
医歯薬出版
1 万年堂出版
一声社
今人舎
岩崎書店
岩波書店
WAVE 出版
潮出版社
樫出版社
NHK 出版
エムオン・エンタテインメント
旺文社
大泉書店
宙出版
オーム社
オレンジページ
音楽之友社
海竜社
化学同人
学研ホールディングス
風間書房
KADOKAWA
角川春樹事務所
金子書房
河出書房新社
かんき出版
協同出版

共立出版
金の星社
くもん出版
研究社
建帛社
コアミックス
好学社
恒星社厚生閣
佼成出版社
講談社
交通新聞社
交通タイムス社
光文社
小峰書店
ゴルフダイジェスト社
さ・え・ら書房
作品社
産業図書
三オブックス
三省堂
サンマーク出版
産労総合研究所経営書院
CQ 出版
ジェイ・リサーチ出版
実業之日本社
実務教育出版
じほう
集英社
出版ワークス
主婦と生活社
主婦の友社
小学館
祥伝社
少年画報社
少年写真新聞社
昭文社
神宮館
新興出版社啓林館
新星出版社

新潮社
晋遊舎
鈴木出版
スタート出版
ステレオサウンド
すばる舎
星雲社
聖教新聞社
静山社
青春出版社
西東社
成美堂出版
聖パウロ女子修道会
誠文堂新光社
世界思想社教学社
世界文化社
セブン&アイ出版
創元社
増進堂・受験研究社
第三文明社
大修館書店
大日本図書
ダイヤモンド社
大洋図書
大和出版
大和書房
高橋書店
竹書房
辰巳出版
玉川大学出版部
淡交社
筑摩書房
地人書館
チャイルド本社
中央経済社ホールディングス
中央公論新社
中日新聞社広告局
汐文社
デアゴスティーニ・ジャパン

ディスカヴァー・トゥエンティワン
東京書籍
東京大学出版会
東京ニュース通信社
童心社
東洋経済新報社
徳間書店
ドレミ楽譜出版社
南江堂
南山堂
二玄社
二宮書店
日本カメラ社
日本漢字能力検定協会
日本経済新聞出版社
日本実業出版社
日本スポーツ企画出版社
日本文芸社
農山漁村文化協会
白水社
白泉社
博文館新社
博友社
ぴあ
PHP 研究所
ビーエル出版
ひかりのくに
ひさかたチャイルド
日之出出版
白夜書房
評論社
フォレスト出版
福音館書店
富山房
扶桑社
双葉社
ブティック社
プレジデント社
フレーベル館

文英堂	今井書店グループ	活字文化推進会議	出版社	182 社
文化学園文化出版局	大垣書店	カンダコーポレーション	取次会社	11 社
ぶんか社	紀伊國屋書店	共同印刷	書店	11 社
文溪堂	金港堂	共立速記印刷	書店組合	17
文芸社	三省堂書店	近代美術	教科書	4
文藝春秋	須原屋	工藤出版サービス	一般	36
文理	八文字屋	光陽メディア	関係団体	4
平凡社	丸善CH I ホールディングス	光和コンピューター		
ベースボール・マガジン社	有隣堂	齋藤商店		
ベストセラーズ	リプロプラス	出版共同流通		
ベネッセコーポレーション	(書店 11 社)	生命保険協会		
ベレ出版		総合教育センター		
芳文社	書店組合	大日本印刷		
ポプラ社	北海道書店商業組合	太陽印刷工業		
ほるぷ出版	岩手県書店商業組合	ダイワハイテックス		
毎日新聞社出版局	宮城県書店商業組合	手島梱包輸送		
マガジンハウス	茨城県書店商業組合	天龍運輸		
三笠書房	群馬県書店商業組合	電通		
みずす書房	埼玉県書店商業組合	東販自動車		
光村教育図書	神奈川県書店商業組合	トーハン従業員組合		
ミネルヴァ書房	愛知県書店商業組合	凸版印刷		
モーターマガジン社	滋賀県書店商業組合	日販コンピュータテクノロジー		
有斐閣	京都府書店商業組合	日本アド		
吉川弘文館	大阪府書店商業組合	日本出版販売労働組合		
リイド社	兵庫県書店商業組合	日本図書普及		
リクルートコミュニケーションズ	広島県書店商業組合	博報堂		
理論社	愛媛県書店商業組合	藤川紙業		
(出版社 182 社)	福岡県書店商業組合	文化産業信用組合		
	佐賀県書店商業組合	三井住友銀行神田法人営業第一部		
取次会社	沖縄県書店商業組合	三菱UFJ 銀行神田支店		
大阪屋栗田	(書店組合 17 組合)	八木書店		
協和出版販売		りそな銀行九段支店		
三和図書		(一般 36 社)		
中央社	教科書供給所			
東京即売	北海道教科書供給所	関係団体		
トーハン	群馬県教科書販売	出版健康保険組合		
日教販	神奈川県教科書販売	日本児童図書出版協会		
日本雑誌販売	愛知県教科書販売	日本出版取次協会		
日本出版販売	愛知県教科書商業組合	日本書店商業組合連合会		
日本出版貿易	(教科書供給 4 社)	(関係団体 4 団体)		
博文社	一 般			
(取次会社 11 社)	インテージテクノスフィア	以上、265 社		
	NTT アド			
書 店	オー・アイ・エム・センター			
旭屋書店	お茶の水商事			

平成 30 年度収支報告書及び財産目録

貸借対照表

正味財産増減計算書 1

正味財産増減計算書2

正味財産増減計算書 3

財産目録

収支計算書1

収支計算書2

収支計算書3

収支計算書 4

財務諸表に関する注記 1

財務諸表に関する注記**2**、収支計算書に対する注記**1**

監査報告書

2019 年度事業計画並びに予算

1. 生涯学習事業

①「JPIC 読書アドバイザー養成講座」開講

平成 5（1993）年のスタート以来、「読書と生涯学習をコーディネートする」人材の育成を目的に毎年開講している。第 27 期を受講生 100 名、修了聴講生若干名で開講する。

②JRAC の活動協力

修了者の自主運営組織である「JPIC 読書アドバイザークラブ（JRAC）」の活動を側面よりサポートする。学習会や読書関連催事の共催も検討する。

③絵本・読みきかせ・読書ボランティア・中高生向け 各種読書講習会

- ・「JPIC 読みきかせサポーター講習会」と「JPIC 読みきかせサポーター実践講座」を、計 21 回を計画。子どもゆめ基金助成事業。
- ・10 代 20 代学生に読書機会を提供する JPIC YOUTH として、「10 代から始めるリベラルアーツ」（子どもゆめ基金助成事業）のほか、ワテラススチューデントハウスの学生とともに 1 週間の読書ウィーク「ワテラスブックフェス」（10 月末）を企画運営予定。

④さまざまな層への読書アプローチ

- ・「辞書プロジェクト」として、辞書を切り口とした読書推進事業を関係各社とともに展開。子どもゆめ基金助成事業としてイベントを開催予定。
- ・昨年から継続して「Live at Bookstore」（子どもゆめ基金助成事業）を開始。全国各地の書店と協力して、読書会・トークイベントを開催。同時に、参加者へ SNS アカウントへのフォローを呼び掛け、読書コミュニティを形成する。
- ・主に JPIC 読書アドバイザーと協力した新たな読書推進活動の取り組みを検討する。

2. 調査研究事業

①日本国際問題研究所 英訳書籍制作・出版への協力

日本国際問題研究所の英訳書籍制作に協力する。今年度は 3 タイトル程度を発行予定。

②日本財団 英語図書寄贈事業「Read Japan」への協力

日本財団が主催する Read Japan＜現代日本理解促進のための図書寄贈事業＞に協力する。

3. 情報提供事業

①JPIC NEWSLETTER

賛助会員をはじめ、関係各方面に JPIC の活動を案内・報告することを目的に、月 1 回程度発行。

②ホームページ運用、メールマガジン発行

読書関連催事等の情報提供ツールとして活用。メールアドレス管理「読書ボランティア」14,500 件を目標に促進。メルマガ会員を増加させ、他事業での DM 費の一層の減少を図る。

③「この本読んで！」発行

平成 13（2001）年 11 月創刊、季刊（第 71～74 号、5・8・11・2 月末）、9,500 部発行。

4. 交流協力事業

①地域読書環境整備事業

「読書教育」「本・読書で町おこし」などの地域ぐるみの読書活動をサポートしていく。引き続き、福島県飯舘村での協力事業を展開する。

②有田川町読みきかせ事業

有田川町における読みきかせの人材育成講座「有田川町よみきかせ隊養成講座」および「有田川町絵本コンシェルジュ養成講座」に協力する。

③「上野の森 親子フェスタ」の開催

「上野の森 親子ブックフェスタ 2020」（5月3日～5日）を関係主催団体とともに、運営委員会を組織して開催する。

④「書店大商談会」への協力

第六回「北海道書店大商談会」（9月3日、札幌市にて開催予定）、「BOOK EXPO 2019」（11月6日、大阪市にて開催予定）、第十回「書店大商談会」（9月25日、文京区にて開催予定）の事務局として協力。

5. 受託事業・業務等

①各社・団体の読書普及事業への協力

「講談社全国訪問おはなし隊」など、団体・企業読書推進への協力、各種催事での図書販売 など。

②「スミセイおはなしひろば」への協力

平成24（2012）年度に全国一巡を完了。2巡目、2地域／関東地区（埼玉県・神奈川県）での実施。

③朝日新聞 読書推進事業への協力

朝日新聞社が主催する「オーサー・ビジット」（今年度は6回開催）「地球教室」などに協力。

④第53回「造本装幀コンクール」への協力

日本書籍出版協会と日本印刷産業連合会が主催する「造本装幀コンクール」に協力する。

⑤生命保険協会「読みきかせによる“家族のきずな”推進事業」への協力

生命保険協会公益事業「読みきかせによる“家族のきずな”推進事業」の新たな3ヵ年計画の3年目として、全21会場での読みきかせ講習会の開催に加え、「家族で楽しむ絵本とあそび」の配布等、読みきかせボランティアの支援を続ける。

⑥内閣府 平成31年度国際広報「JAPAN LIBRARY」への協力

26年度に開始した＜日本の魅力発信に資する書籍の翻訳出版事業＞に協力する。今年度は15タイトル程度を発行予定。

収支予算書1

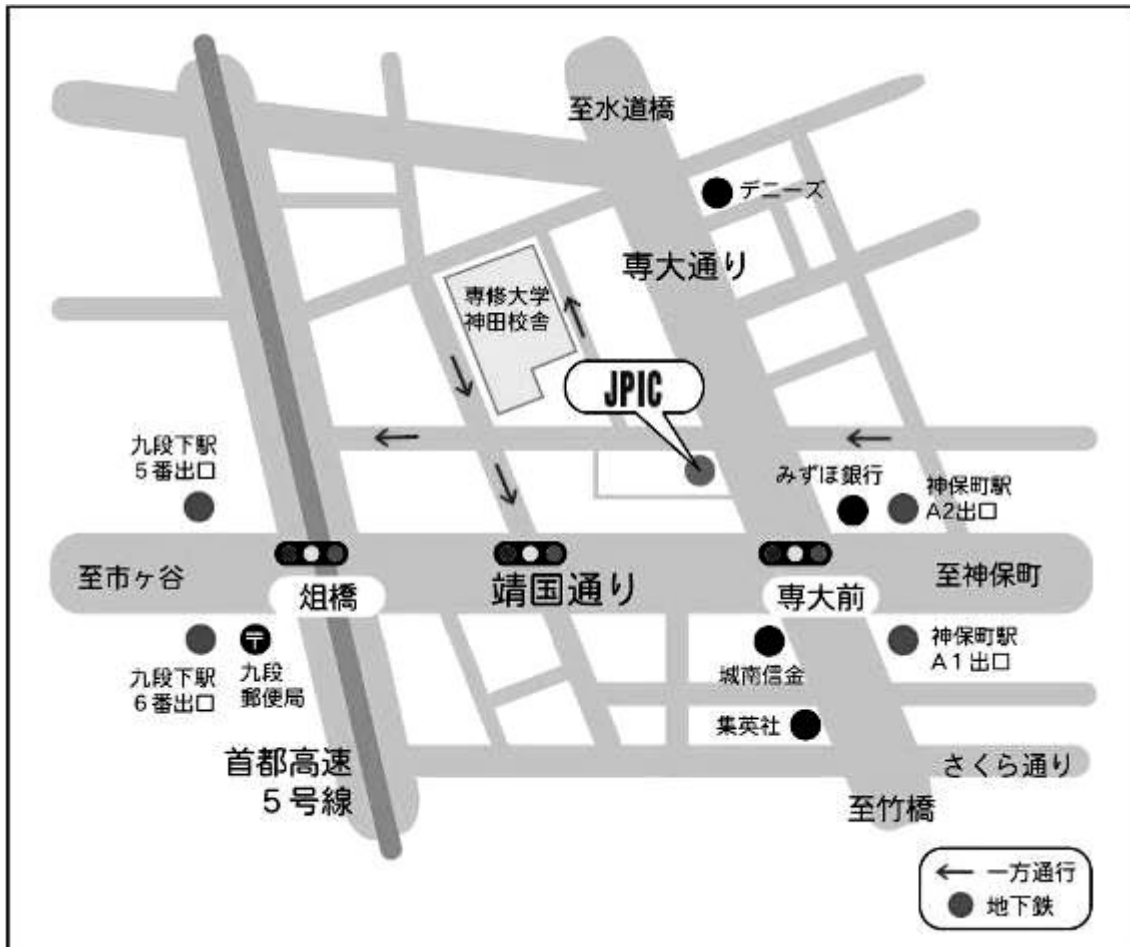
収支予算書2

収支予算書3

収支予算書4

財団案内図

- 名 称 一般財団法人出版文化産業振興財団
■所 在 地 〒101-0051
東京都千代田区神田神保町 3 丁目 12 番地 3 神保町スリービル 8 階
TEL.03-5211-7282 FAX.03-5211-7285
<http://www.jpica.or.jp/>



交 通

九段下駅 6 番出口 徒歩 5 分（地下鉄／半蔵門線・東西線 都営／新宿線）

神保町駅 A1 出口 徒歩 2 分（地下鉄／半蔵門線 都営／新宿線・三田線）

水道橋駅 西 出 口 徒歩 7 分（JR／総武線・中央線）

※ 1 階が CVS「ファミリーマート」のビルです。

定 款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、一般財団法人出版文化産業振興財団（英文名 Japan Publishing Industry Foundation for Culture。略称「JPIC」）と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都千代田区に置く。

2 この法人は、理事会の決議によって従たる事務所を必要な地に置くことができる。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 この法人は、出版文化産業及び読書活動に係る生涯学習の推進、出版文化産業及び読書活動に関する調査及び研究、人材育成、情報の収集及び提供等を行うことにより同産業の振興を図るとともに、読書活動の推進をはかることにより、我が国経済社会の健全な発展・国民の生活文化の向上・青少年の健全育成に寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条 この法人は、前条の目的に資するため、次の事業を行う。

- (1) 出版文化産業及び読書活動に係る生涯学習の推進
- (2) 出版文化産業及び読書活動に関する調査及び研究
- (3) 出版文化産業及び読書活動に関する人材育成
- (4) 出版文化産業及び読書活動に関する情報収集及び提供
- (5) 出版文化産業及び読書活動に関する内外関係機関等との交流及び協力
- (6) 前各号に掲げるもののほか、本財団の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業は、日本全国及び海外において行うものとする。

第3章 資産及び会計

(資産の構成)

第5条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な財産は、この法人の基本財産とする。

2 基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならないが、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を得なければならない。

(事業年度)

第6条 この法人の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(事業報告及び決算)

第7条 事業報告書及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時評議員会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第5号までの書類については承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

2 前項の書類のほか、監査報告を主たる事務所に5年間備え置くとともに、定款を主たる事務所に備え置くものとする。

3 この法人は、剰余金の分配を行うことができない。

第4章 評議員

(評議員)

第8条 この法人に評議員30名以上40名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第9条 評議員の選任及び解任は、評議員会の決議をもって行う。

(任期)

第10条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 任期満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。

3 第8条に定める評議員の員数が欠けた場合には、任期の満了又は辞任により退任した評議員は、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員に対する報酬)

第11条 評議員の報酬は、無報酬とする。

第5章 評議員会

(構 成)

第 12 条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

(権 限)

第 13 条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）並びにこれらの附属明細書の承認
- (4) 評議員に対する報酬等の支給の基準
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分又は除外の承認
- (8) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開 催)

第 14 条 この法人の評議員会は、定時評議員会及び臨時評議員会とする。定時評議員会は、毎事業年度の終了後 3 ヶ月以内に開催し、臨時評議員会は、必要に応じて開催する。

(召 集)

第 15 条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が召集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び召集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決 議)

第 16 条 評議員会の決議は、評議員（決議について特別の利害関係を有する評議員を除く。）の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、評議員（決議について特別の利害関係を有する評議員を除く。）の 3 分の 2 以上に当たる多数を持って行う。

- (1) 監事の解任
- (2) 評議員に対する報酬等の支給の基準
- (3) 定款の変更
- (4) 基本財産の処分又は除外の承認
- (5) その他法令で定められた事項

(決議の省略)

第 17 条 理事が、評議員会の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の評議員会の決議があ

ったものとみなす。

(報告の省略)

第 18 条 理事が、評議員の全員に対し、評議員会に報告すべき事項を通知した場合において、その事項を評議員会に報告することを要しないことについて、評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その事項の評議員会への報告があったものとみなす。

(議事録)

第 19 条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成し、議長並びに出席評議員及び理事の各 1 名がこれに記名押印するものとする。

第 6 章 役員等

(役 員)

第 20 条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 20 名以上 30 名以内
 - (2) 監事 3 名以内
- 2 理事のうち 1 名を理事長とし、4 名を副理事長、1 名を専務理事、6 名を常務理事とし、2 名以内を業務執行理事とすることができる。
- 3 前項の理事長をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とする。

(役員を選任)

第 21 条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長及び、副理事長、専務理事、常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
- 3 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 91 条第 1 項第 2 号に定める業務執行理事は理事会の決議によって理事の中から選定し、うち 1 名は専務理事とする。

(理事の職務及び権限)

- 第 22 条 理事は理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。
- 2 理事長は、この法人を代表し、法人の業務を執行し、専務理事及びその他の業務執行理事は、理事会において別の定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長、専務理事及びその他の業務執行理事は、毎事業年度に 4 ヶ月を超える間隔で 2 回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第 23 条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第 24 条 理事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了するときまでとする。

4 理事又は監事は、第 20 条に定める定数に足りなくなるときは、辞任又は任期満了後においても、新たに選任された者が就任するまでは、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員改選)

第 25 条 理事及び監事が次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(報酬等)

第 26 条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

(役員損害賠償責任の免除)

第 27 条 この法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 114 条第 1 項の規定により、理事又は監事が任務を怠ったことによる損害賠償責任を、法令に規定する額を限度として理事会の決議により免除することができる。

(外部役員責任限定契約)

第 28 条 この法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 115 条第 1 項の規定により、外部理事又は外部監事との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任の限定契約を締結することができる。

なお、責任の限度額は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 113 条第 1 項の規定による最低責任限度額とする。

(顧問)

- 第 29 条 この法人に、顧問 5 人以内を置くことができる。
- 2 顧問は、学識経験者又はこの法人に功労のあった者のうちから、理事会の推薦により、理事長が委嘱する。また解任については理事会において決議する。
- 3 顧問は、この法人の運営に関して理事長の諮問に答え、又は理事長に対して意見を述べる。
- 4 顧問の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。
- 5 顧問の報酬は無償とする。
- 6 顧問の選任及び解任は、理事会において決議する。

第 7 章 理事会

(構 成)

- 第 30 条 理事会は、すべての理事で構成する。

(権 限)

- 第 31 条 理事会は、次に掲げる職務を行う。
- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

(召 集)

- 第 32 条 理事会は、理事長が招集する。
- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。
- 3 理事会を招集する者は、理事会の日時、場所、目的、その他必要な事項を記載した書面をもって、理事会の日の 1 週間前までに、各理事及び各監事に対してその通知を発しなければならない。
- 4 前項の規定にかかわらず、理事会は、理事及び監事の全員の同意があるときは、召集の手続きを経ることなく開催することができる。

(議 長)

- 第 33 条 理事会の議長は、理事長とする。

(決 議)

- 第 34 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 197 条において準用する同法第 96 条の要件を満たしたときは、理事会の決議があ

ったものとみなす。

(決議の省略)

- 第 35 条 理事が、理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなすものとする。ただし、監事が異議を述べたときは、その限りではない。

(報告の省略)

- 第 36 条 理事又は監事が理事及び監事の全員に対し、理事会に報告すべき事項を通知した場合においては、その事項を理事会に報告することを要しない。
- 2 前項の規定は、第 22 条第 3 項の規定による報告には適用しない。

(議事録)

- 第 37 条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
- 2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名し、又は記名押印する。

第 8 章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

- 第 38 条 この法人は、評議員会の決議によって定款を変更することができる。
- 2 前項の規定は、この定款の第 3 条、第 4 条及び第 9 条についても適用する。

(解 散)

- 第 39 条 この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由により解散する。
- 2 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 5 条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第 9 章 公告の方法

(公告の方法)

- 第 40 条 この法人の公告方法は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法とする。

第 10 章 事務局

(事務局)

第 41 条 この法人に事務局を置く。事務局の組織及び運営に関して必要な事項は理事会で定める。

第 11 章 雑 則

(委 任)

第 42 条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 121 条第 1 項において読み替えて準用する同法第 106 条第 1 項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 121 条第 1 項において読み替えて準用する同法第 106 条第 1 項に定める特例民法法人の解散の登記と一般法人の設立の登記を行ったときは、第 6 条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。
- 3 この法人の設立当初の事業年度は、第 6 条の規定にかかわらず、この法人の成立の日から平成 25 年 3 月 31 日までとする。
- 4 この法人の最初の理事長は肥田美代子とする。
- 5 この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。

秋田貞美	坂井宏先	江崎直利
柳楽節雄	斎藤健司	田江泰彦
井上一夫	齊藤隆巳	片岡 隆
今村正樹	伊藤 聡	小泉忠男
関谷幸一	谷川直人	亀井忠雄
高納勝寿	加藤真由美	石川博史
清水康史	金田 徹	北島義斉
増田義和	岩本幸子	大湊 満
大塚 茂	和田年正	濱田博信
鈴木一行	森岡忠弘	
鹿谷史明	外山義朗	
岩渕 徹	山去賢二	
溝口明秀	土屋正三	
伊藤富士男	川島孝文	
大橋一弘	筒井正博	

禁無断転載

2019 年（令和元年）6 月

発 行 一般財団法人 出版文化産業振興財団
東京都千代田区神田神保町 3 丁目 12 番地 3

電 話 03（5211）7282

印 刷 太陽印刷工業株式会社